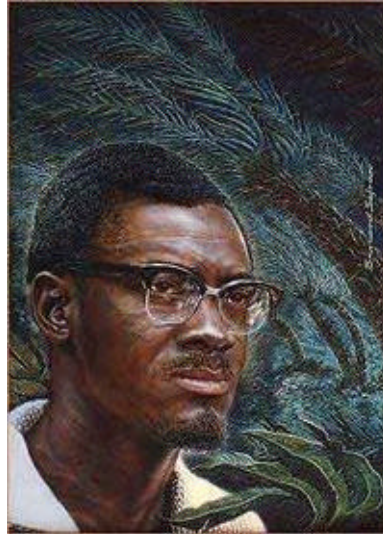


湘南科学史懇話会 2007年正月14日講演  
『Lumumba - アフリカ現代史の殉教者』

丁亥(ひのとい)  
田邊 好美(よしはる)著



Avec sa mort, Lumumba a cessé d'être une personne. Il est devenu toute l'Afrique.  
ルムンバは死して、一個の人であることを止めた。彼はアフリカそのものになった。

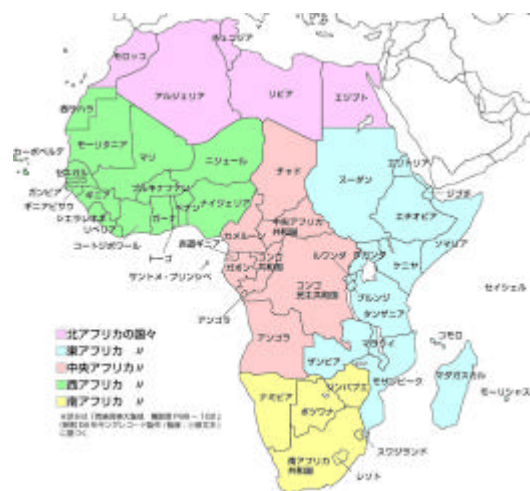
(Jean-Paul Sartre)

Bonjour à tous !

みなさん、こんにちは、

湘南科学史懇話会の記念すべき第50回の本日にあたり、講演の機会を与您にいただき大変光栄です。

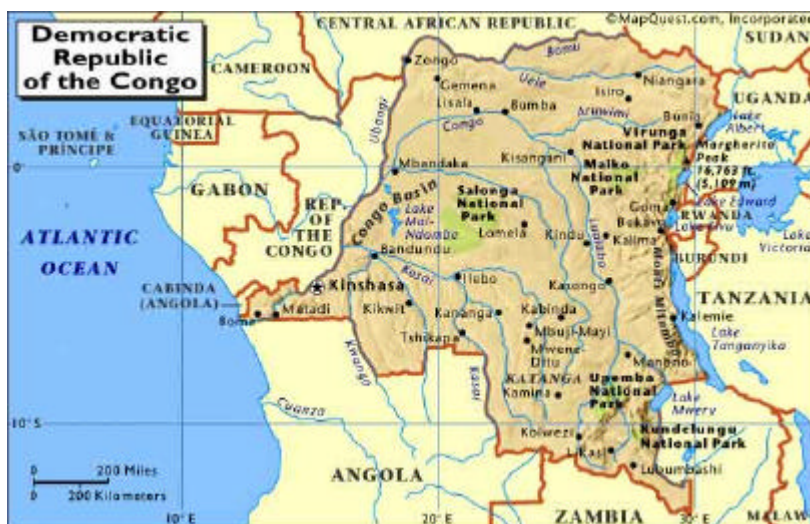
ルムンバの話に入る前に、アフリカ大陸について地図をみましょう。



今日の主題の地域は主としてアフリカ大陸の、いわゆる**ブラック・アフリカ** Afrique noire です。左のアフリカ大陸の地図上で緑色の部分になります。現在この言葉、Afrique Noire は正式には Afrique sub-saharienne と呼ばれています。Afrique noir に暗黒大陸のイメージがあるからでしょう。しかし、本来 noir といっても偏見があるとは思えません。黒人 Les noirs といっても、それ自体は肌の色を指しているだけですから。

次にコンゴの地図をみます。**コンゴ共和国 République du Congo** と**コンゴ民主共和国 République Démocratique du Congo (RDC)** とがあります。まぎらわしい。Congo Brazzaville と Congo Kinshasa と区別しています。Lumumba の国は後者コンゴ民主共和国です。前者がフランスから独立したのは、1960年8月15日のことです。8月15日といえば、キリスト教では聖母マリア被昇天祭の日でもありますから、政教分離の国フランスでも国家の祭日です。因縁のある日に独立したものです。フランスの意図は何だったでしょうか。

Congo Brazzaville の面積が 341.821km<sup>2</sup>、日本が 377.835km<sup>2</sup> ですから、日本の 90%くらいの領土です。一方 Congo Kinshasa は 2,345,000km<sup>2</sup> と巨大な国。アフリカ大陸ではスーダン、アルジェリアに続く広大な面積があります。



人口でみると CIA の [factbook](#) が出している数字では 2006 年前者が 2,894,336 人 (2001 年) 後者が 62,660,551 人 (2006 年) とあります。しかしこの数字はいい加減です。天下の CIA でも信じるわけにはいきません。下一桁まで数字が出るわけがないのです。

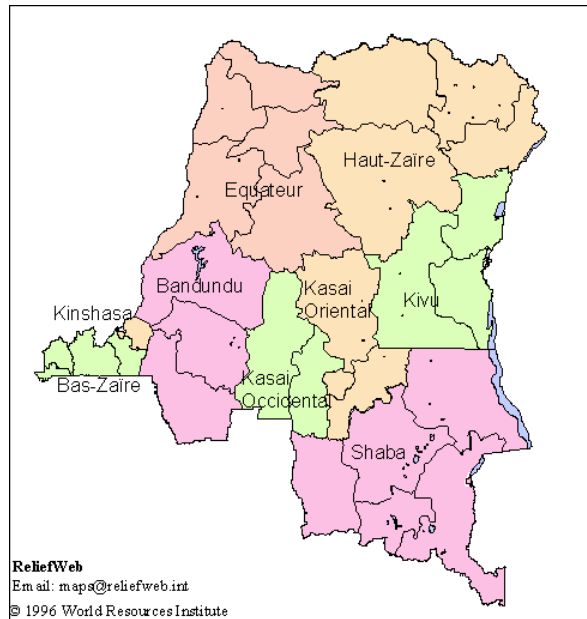
去年 2006 年 7 月 30 日と 10 月 29 日と二度にわたって大統領選がありました。したがって有権者数は少なくともわかっているわけで、それが 26 millions です。しかし、これも概数です。国勢調査などは独立以来不存在。

唯一この国に存在する信用できる人口統計は、ベルギーの Liège 市の協力で行った 2001 年のルブンバシ市の統計があるのみなので、首都キンシャサはもちろんのこと、国全体の人口など知る由もありません。

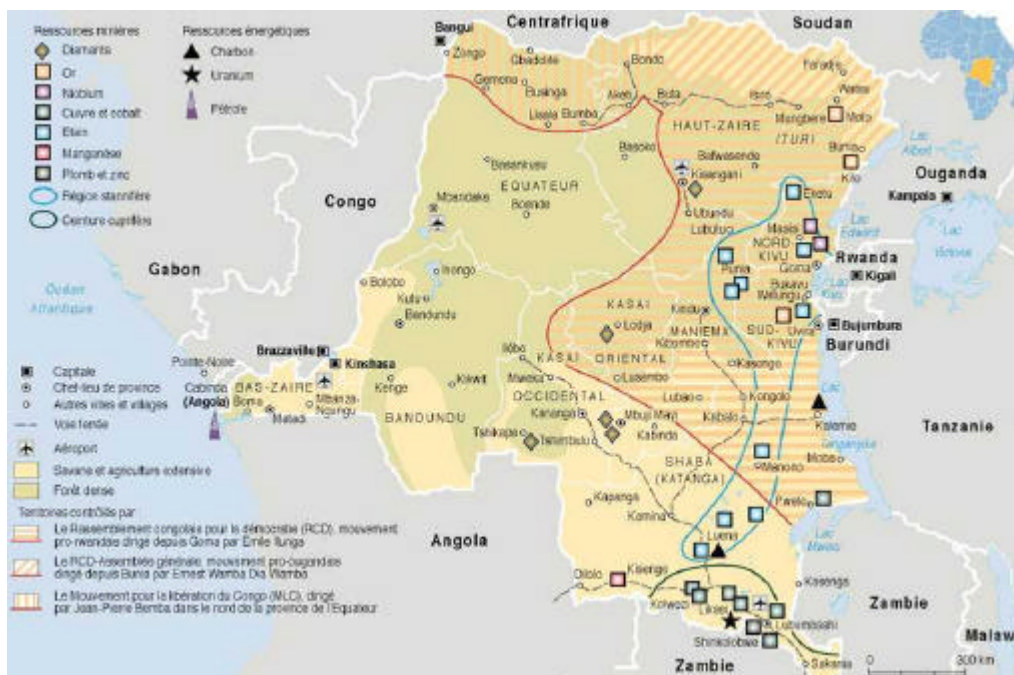
建前として国民背番号制があります。身分証明証 Carte d'identité を内務省が発行しています。しかし、行政が不存在なのです。そのことは、おいおいお話しますが、この国で統計は全く意味がありません。従って、45 millions から 60 millions の間という途轍もない概算しかできません。

行政地図をご覧ください。

RDC が Zaire と呼ばれたころの古い地図ですので、多少読み替えが必要です。Bas-Zaire、Haut-Zaire は Bas-Congo、Haut-Congo になります。Shaba 州は現在の Katanga 州です。Sahaba とはスワヒリ語で銅を意味します。私が過ごした Lubumbashi 市は Katanga 州の南端に位置しています。この州は日本よりも面積が大きいのですが (496 871 km<sup>2</sup>) 人口は 800 万人強。州都ルブンバシが 110 万人強です。



RDC は「不幸なこと」に鉱物資源がとても豊かな国です。原油を含めて鉱物資源の豊かな国に幸福な国はありません。金、銀、銅、コバルト、鉄、錫、鉛、ダイヤモンド等をはじめレア・メタルもウラン鉱も埋蔵されています。原油も狭い海岸線だけではなく、開発が難しそうですが、内陸に膨大な油田があることが知られています。



日本に落とされた広島・長崎の原爆に使われたウランも当時ベルギー領であった RDC はカタンガ州から産したものであることは有名な話です。北朝鮮の原爆製造に使われたウランもしかりです。Kim Yong-nam と現大統領 Joseph Kabila の父親、暗殺された前大統領 Laurent Désiré Kabila は親しい間柄でした。その関係が CIA の怒りに触れ暗殺されたのだとも言われています。

行政が不存在ですから、鉱山採掘も政府によって管理されていません。それぞれ勝手に採掘され（公然と）密輸出されています。そして戦争や内戦の資金源になっています。ヘロインがアフガニスタン内戦の資金源であるのと同じ構造があるのです。しかもそれら鉱山で多くの子供たちが極めて低い賃金で奴隷のように働かされています。

## RDC の歴史

西欧の侵略、植民地化からの歴史をまとめます。それ以前が、一般的に考えられているように未開の、原始的な生活を営む部族社会のみの土地だからではありません。200.000 年前に遡る石器時代の貴重な遺跡 Mulundwa はカタンガ州にありますし、人類は中央アフリカで生まれ世界に広がったにちがいないのです。ここでは鉄器時代も紀元前 2000 年には見られます。日本は 500 年代（古墳時代）になってやっと製鉄技術を身につけました。

ヨーロッパ人との最初の接触は 15 世紀です。中国の Zeng He（鄭和）が来ていれば、東洋との接触もあったのでしょうが記録がありません。しかし、この時代ヨーロッパ人はコンゴ川（長さ 4.373 km）を河口から 160km 以上遡ることが出来ませんでした。滝と急流に阻まれたからです。RDC は大西洋からではなく、インド洋側から大湖 Grands Lacs の高地を経てコンゴ川を下ることによって開発 exploiter されていきます。首都ブラザヴィルやキンシャサが比較的内陸にあり、探検家 Stanley の名が冠せられた Stanleyville（現キサンガニ）がコンゴ川中流にある所以です。



ヨーロッパ列強に植民地獲得で遅れをとっていたレオポルド II 世 Léopold II は、1865 年 12 月 30 歳で王位を継承したが、1879 年ジャーナリストで探検家である英国人 Henry Morton Stanley をコンゴ地域に派遣しました。これ以前レオポルドはアルゼンチンの一部やボルネオ島またフィリピンを買おうとしたり、果ては中国そして日本を植民地化しようと企てたりしました。これは議会に阻まれたのですが、理由はもちろん植民地主義に議会が反対なわけではなく、単に金がかかりすぎる（rentable ではない）との故です。議会が国としてどこそこから植民地を買うのに賛成しないなら、個人として、一般市民として海外の土地を所有すればよいだろう、これがレオポルドの回答でした。

Stanley が現在のキンシャサ側を、フランスの探検家 Pierre Savorgnan de Brazza がブラザビル側を探検しました。旧フランス領コンゴ、現在のコンゴ共和国の首都が Brazzaville と呼ばれている所以です。Kinshasa は Kintambo 村がベルギーの手で国王の名前をとって Léopoldville と命名されましたが、その後モブツのザイール化政策によって元に戻されました。

**1885 年ベルリン会議** Conférence de Berlin で欧州列強はアフリカ分割を決定しました

(1985年11月15日～1985年2月26日)。会議は宰相ビスマルクが提唱して開催されたものです。勿論アフリカから代表は一人もいませんでした。米国の代表は何故か Stanley なのですが、彼を除いてアフリカに行ったことが人物も出席していません。そこで決められたのは、次の5項目です。

la liberté du commerce dans tout le bassin du Congo;

la liberté de navigation sur le Congo, le Niger et leurs affluents;

la liberté religieuse, le droit d'organiser des missions;

l'interdiction de la traite des esclaves;

la concertation avec les autres Puissances lors de la prise de possession d'un territoire.

コンゴ湾における自由通商

コンゴ川およびニジェール川またそれらの支流の自由通航

宗教活動の自由、布教伝道の権利承認

奴隷売買の禁止

領土取得の際に列強と協議すること

この決定事項は現在どこそかの国が開発途上国と結んでいる FTA の考え方、WTO の考え方と基本的に同じではないでしょうか。

巧妙な外交、いや手口を用いながらレオポルドは、この会議後ついにコンゴ独立国 Etat Indépendant du Congo (「独立」とは、何という名前でしょう!) を彼の私有地として各国に承認させることに成功しました(1885年5月29日)。表面上 Association Internationale Africaine という会社のものですが、その会社の唯一の株主がレオポルド II 世なので、何をかいいわんや、ですね。

現在の RDC と同じ広大な土地からレオポルドは最大の利益を略奪します。搾取という言葉に相応しいぼろ儲け。最初は象牙とゴムが主体でした。その得た利益からレオポルドは様々な建物や記念碑をベルギーの首都 Bruxelles に建てています。彼が Roi-bâtitseur (建築狂王) と呼ばれましたが、その金の出所はコンゴだったのです。

Léopold II 世の私有地としてのコンゴが、ベルギー国家の所有地、植民地 Congo Belge となったのは 1908 年 11 月 15 日のことです。それはそれまでの野生のゴムや象牙中心から本格的コトンやパーム油等の plantation 農業また鉱山開発による搾取の始まりでもありません。

独立時点で大学が二校ありました。しかし合計 466 名の学生が学んでいたに過ぎません。現在 Lubumbashi 大学 (旧 Université d'Elisabethville) の学生数は 25,000 名です。教育は主としてカトリック教会が担いました。今ひとつの大学は Léopoldville の Université Lovaniun (現キンシャサ大学) です。

アフリカ人の居住区は郊外に作られており、夜間 21 時から早朝 4 時まで外出禁止でした。アパルトヘイト状態といってよいのです。Plantation や mining で必要な労働力は、村落から一人 10 フランで「買われ」ました。労働力はアンゴラ (ポルトガル領) や北ローデシア



(現 Zambie)でも同様に買われてきたのでした。スズメの涙の給与でも支給されたから(10~15F/月) 奴隷ではないといえるのでしょうか。労働条件も過酷なものでありました。

第一次世界大戦後、宗教的色彩を帯びた独立運動が起こりましたがすぐに弾圧されました。第二次大戦後にようやく独立運動の芽が出始めてきます。米ソもアフリカ諸国の独立には好意的でした。しかし、まだ独立には30年を要するであろうなどという論文が発表されました(Antoine Van Bilsen 教授)。政党結成が許されたのが1956年。地方議会選挙が行われたのが1957年でした。



ルムンバは1956年、当初 Amicale Libérale という政党に属していましたが、社会主義色を強めて自ら Mouvement National Congolais (MNC) を結成します。Josef Kasa-Vubu の Abako 党、カタンが州 Lunda 王朝の末裔である Moise Tshombe の Conakat 党 (Confédération des associations tribales du Katanga) この三つの党が200を超える政党の中でも有力政党でした。

(左の画像は Kasa-Vubu)

結局60年の議会選挙ではMNCとAbakoが大勢を占めたのですが、カタンガ州では圧倒的にチョンベ Tshombe の率いる Konakat が主流でした。これがカタンガ独立宣言(1960年7月11日)へと向かい、更にはコンゴ紛争へと発展する素地になります。



(右の画像は Tshombe)

前置きが長くなりましたが、しかし、ベルギーが一体コンゴに何をして来たのかを把握しないで映画『ルムンバ』をみても、Patrice の怒り、そして彼の人気も成功もわかりません。

邦題は『ルムンバの叫び』、2月2日に発売になるDVDのタイトルは『暗殺前夜 ルムンバの叫び』です。日本語字幕付きのfilmを上映すべきであるとのopinionを今日ご出席の方からいただきましたが、残念ながら本日には間に合いませんでした。字幕付きのDVD filmは今年2007年2月2日に発売になるそうです。ご容赦ください。

この映画を私はカタンガ州ルブンバシ市の街角の出店でVCDとして購入してPCで見ただけですが、VCDというのはアフリカ、東南アジアでDVDの代わりによく売っている録画方式です。DVDはまだ高いので、海賊版を作るにしてもコストがかかること、DVDを見るdeviceが普及していないことからVCD、要はCDに画像を焼くVCDになっているのです。DVD一枚がVCDですから800Mb×2と二枚になり、DVDのような監督とのイン

タビューなど特典映像はありません。本日上映するのは帰国後 RDC 大使館から間接的に借りた DVD を HD にコピーしたものです。

ここで『ルムンバ』を見る前に、短編『国内難民 Déplacé et Sinistré dans Ma Propre Contrée』の上映をお許しください。ルブンバシでお会いした修道女 Assunta SANO さんからお借りした DVD です。カタンガ州北東にあるモエロ湖の近くの村からのレポートです。カトリック教会の修道院の制作になります。ルムンバ死後 45 年経った 2005 年の RDC の現実が語られています。この短編映画の舞台となったような村が RDC のいたるところにあるのです。独立から半世紀をやがて迎えようとしている国の悲劇は、ルムンバの期待、予想を裏切ってなお無残な姿をみせています。

映画の中の反乱軍首謀者マイマイ・ジデオ N Mai-Mai Gideon こと Kyungu Mutanga は 2006 年 5 月 12 日、国連軍 (Monuc) に投降しました。

字幕がありませんので、都度解説をさせていただきます。

(短編上映開始)

(休憩)

(『Lumumba』上映開始)

映画は 2000 年に製作されました。日本では『ルムンバの叫び』として 2001 年 7 月公開されました。フランス・ベルギー・ドイツ・ハイチの合作になっています。

Producteur はフランスの Jacques Bidou。伝記ばかりを produce しているわけではありませんが、2002 年には「Salvador Allende」の produce もしています。これは輸入されていません。売れない映画ということでしょう。売れない映画ということでは、RDC の隣国の Génocide を扱った「Hôtel Rwanda」にも同様の判断が日本の配給会社にあったことでしょう。それが、日本公開になったのが、インターネットの SNS (Social Networking Service) の一つである Mixi で作られた一般市民のグループであったのは興味深いところです。



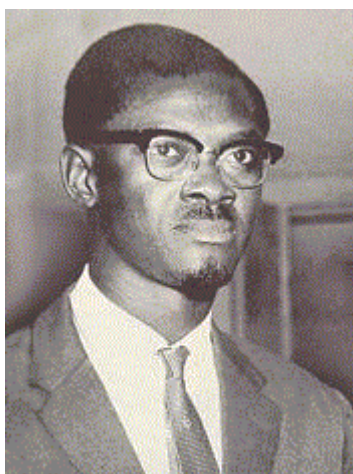
監督は Raoul Peck、黒人国として世界で始めて独立を果たしたカリブ海の島国ハイチ出身の人です。1953 年首都 Port-au-Prince に生まれていますが、父親が 1961 年にコンゴに職を得て移民したため、Raoul Peck も 2 年後 Léopoldville で合流しました。しかし、学業は米国、フランスそして大学はベルリン (RFA) で続けました。父親がハイチを出た切欠は、医師だったので Papa Doc と呼ばれた Haïti の独裁者 François Duvalier (1907-1971) を避けたことによります。Duvalier は 1957 年に選挙で選ばれた大統領ですが、64 年には終身大統領になってしまいました。ハイチの 1961 年というのは、Duvalier が憲法を勝手に改定して反対票ゼロで大統領選に勝利した年でした。Duvalier もこの映画に出てくる後の RDC の独裁者 Mobutu も初めから独裁者ではありませんでした。Raoul Peck が、Lumumba に関心をもったのは、Léopoldville のホテルで働いていた母の影響があります。1991 年にドキュメンタリー「ルムンバ、預言者の死 Lumumba, la mort du prophète」を制作しています。1996 年には本国ハイチで文化大臣 Ministre de la Culture を務めています。

Haïti 判 André Malraux です。

実際の撮影は、残念ながら RDC では行われませんでした。モブツ後の内戦の最中だったからです。「アフリカのスイス」といわれる Zimbabwe、および東の隣国 Mozambique にロケ地が選ばれました。Zimbabwe、元南ローデシアが「アフリカのスイス」というのは恐れ入りますね。2000 年の撮影時点では Robert Mugabe の独裁下で比較的平和が保たれていたということでしょう。Victoria 瀑布のある Zimbabwe ですが、2006 年のインフレは 1.000% という驚異的なもの、観光もほぼ不可能です。内陸国であり、気候が高度があるため穏やかであることが、アフリカのスイスであつたらいいなあという期待を込めてそういわれている所以だと思います。この地理的、気候的条件は Uganda や Rwanda についても同様にいえることです。また他方では白 le blanc にとって、植民地時代はよかった、という懐古趣味的意味も「アフリカのスイス」という表現にはあるでしょう。

Paoul Peck は『Lumumba』の USA に於ける興業的成功の後『Sometimes in April』という Rwanda Génocide の映画をルワンダ・ロケでとっています。これは上記『Hôtel Rwanda』と違って輸入されていません。フランスや USA での評判は上々のようです。機会があつたら皆さん是非鑑賞してください。

ショッキングなシーンから映画が始まります。白人はベルギー人でしょう。コンゴが独立宣言していたカタンガに雇われたかベルギー本国から派遣された兵隊と思われます。フムンバの遺体が実際このように鋸で切れ、ばらばらにして焼却されたか否かは知りません。しかし、ルムンバの遺骨は未だに発見されていません。



Patrice Lumumba は東カサイ州サンクル郡カタコ・コンベの Onalowa 村に貧しい農家の第二子として 1925 年 7 月 2 日生まれということになっています。カトリック系の小学校、さらにスエーデン系プロテスタントの中学で勉強しました。Stanleyville また Léopoldville に出ることで村落とは違った差別を体験していきます。Patrice は 1945 年、コンゴ人としてエリートである「évolué (進化したコンゴ人)」として一般のコンゴ人とはクラス分けされています。単純労働者とはベルギー人によって区別されたわけです。しかし、「進化した」とは失敬ではありませんか！

彼は郵便局員として仕事に従事する傍ら、同じ évolués たちと人種偏見また独立運動に目覚めていきます。

民族独立の気運は 1948 年のインド、そして 50 年代のアフリカで高まっていきます。リビア (1951 年)、モロッコ、スーダン、チュニジア、ガーナ、ギニア (1959 年) と独立を達成。1954 年 Patrice Lumumba はコンゴ・ベルギー当局から「carte d'immatriculé (登録証)」を発行されました。1958 年までにこの「登録証」を得たコンゴ人は 217 人しかいませんでした。まじめな勤務態度が下級官吏として認められたということですが、当時の



人口がすでに 1300 万人ですから、エリート中のエリートということになります。1955 年 4 月 24 日の Bandoeng 非同盟諸国会議にコンゴ代表としてオブザーバー参加をしています。このバンドン会議はインドのネルー、ユーゴスラヴィアのチトー、エジプトのナセル、中国の周恩来等が出席した戦後世界史の重要な会議でした。ちなみに日本も参加しています。経済審議庁長官高崎達之助が代表演説までしています。日本の平和憲法を前面に押し出して。経済審議庁は総理府外局として 1952 年に設置された役所です。経済企画庁の全身ですね。2001 年にこれも内閣府に統合されて現在はもうありません。また高崎達之助は満州重工業総裁、財界出身の政治家、いわゆる実力者ですが、こうした人物が日本を動かした基本は何なのか知る必要がありますね。

閑話休題。

1958 年のガーナの首都アクラで行われたパンアフリカ会議にも出席したのは、映画にもある通りです。ここでナセルやギニアの Kwané N'Kuruma などと親しくなり、暗殺の危険が迫ったとき家族をエジプトに逃がせることが出来るようになるのです。ガーナの独立は 1957 年 3 月 6 日でした。

この頃、Lumumba はビール工場で販売担当次長として働いていました。工員ではありません。数少ないコンゴ人エリートです。キンシャサの Polar ブランドのビール工場でした。キンシャサには他に Premus、Skol などがあります。私は Lubumbashi でしたから Simba (Lion) Tempo (Eléphant) を愛飲していました。酒屋には Kinshasa から空輸されたビールもありましたが、高価でした。



1959 年 1 月 4 日の Léopoldville の Place de la Victoire 事件( 50 ~ 500 人のコンゴ人死者を出した ) 後、映画にあったように「意味のない引き延ばしを図ることもなく、また軽率に慌てることもなく、コンゴ人民を独立へと導く ("Notre ferme résolution est aujourd'hui de conduire sans attermoiements funestes, mais sans précipitation inconsidérée, les populations congolaises à l'indépendance dans la prospérité et la paix.")」ことを約束すると Baudouin ベルギー国王 ( 左の画像 ) の言葉を引き出しました ( 1 月 13 日のラジオ放送 )。1 月 4 日は今日 RDC の祝日になっています。

1959 年 10 月、Patrice Lumumba は Stanleyville の政治集会後のデモの責任を問われて 2 日後に逮捕され、60 年 1 月 21 日禁固 6 ヶ月の刑が言い渡されました。しかし、26 日には、これも映画で描かれているように、釈放されてブラッセルの独立のための話し合いに参加します。

1960 年 5 月の下院選挙で MNC が勝利し、Lumumba が首相に選出されます。また上院の

投票で Kasa-Vubu が大統領になります。

映画では Patrice Lumumba Tolenga の娘は一人しか登場していませんが、彼は実際には五人の子供がいました。

最初の妻 Pauline Kie の間に長男 François Tolenga (1951年4月生まれ) がいます。Pauline Kie にはすでに前夫との間に Léonie という娘がいました。

次に映画に出てくる Pauline Opango との間に Patrice Okende、Julienne Amato、Roland Okito、および映画でも乳児のうちにスイスに送られて亡くなってしまう Pauline がいます。

さらに Alphonsine Batamba との間に Guy Omeniama ということになります。



こうした家族構成の事実は映画では省略されています。娘 Julienne だけを登場させた意味は、単に複雑さを避けるためだけではなく、Patrice がキリスト教徒にも拘わらずアフリカ的一夫多妻 polygamie であったことが、主としてアメリカの観客にとって好ましくないと考えられたからではないかと推察します。独裁者 Mobutu Sese Seko (左の画像) の女性との関係は複雑で、政争にも利用していたことはよく知られています。神格化された Patrice の場合には、敬虔なクリスチャンであることがイメージとして求められたとす

れば、アフリカの現実から遠いというものです。

ルムンバが暗殺されたとき長男 François は 10 歳でした。家族は Nasser ナセルの庇護の下にエジプトに渡ります。妻 Pauline は 2006 年現在お元気で活躍されています。

François は 19 歳までエジプトにいて、その後ブダペストで政治学 Science-po を収めました。90 年、モブツの時代に RDC に帰って政治運動を MNC-Lumumba の党首として始めましたが人気は今ひとつのようです。Julienne は Kabila 父子の内閣に入って文化大臣等を歴任していました。François の意見で辞任しましたが。人気は Fondation Patrice Lumumba 総裁の Roland Lumumba が一番高いようにみえます。Guy は父の死後 1961 年 4 月 7 日生まれです。

この Lumumba の家族のことから 2006 年の選挙に目を移してみます。

Julienne は Guy の立候補に反対していましたが、結局 Guy Lumumba のだけが 2006 年の大統領選挙に出馬しました。落選しています。33 候補中 19 位で 0,42% という結果でした。

嘗ての独裁者 Mobutu Sese Seko の息子 (二番目の妻との子、Joseph Kabila の対抗馬副大統領 Jean Pierre Bemba の娘婿でもある) François Joseph Nzamga Mobutu も出ています。得票 4,77% でした。決選投票前に (9 月 20 日) 義父ではなく、Kabila 陣営に味方することを決めています。

また、Joseph Kasa-Vubu は 1969 年に亡くなりましたが、娘の Justine Kasa-Vubu M'poyo も立候補しました。結果は Guy Lumumba 同様思わしくなく 18 位で 0,44%。

Lumumba が首相のときの副首相、Antoine Gizenga (1925 年 ~) も出馬し、13% 弱を

得票。決選投票では、彼も Kabila 側に立ち、去年 2006 年 12 月 30 日 Kabila により首相に任命されました。81 歳の Gizenga 首相は、ルムンバの正統な政治的後継者を辞任しているそうです。

[新憲法](#)が 2006 年 2 月公布され、第三共和制国家コンゴ民主主義共和国が発足しました。第 1 章第 16 条には死刑廃止（間接規定）があるのですが、それだけでなく極めて西欧民主的な憲法が出来上がりました。

独裁者モブツ死後の内戦で失われた生命はアメリカの NGO である Internatinal Reçue Committee-IRC によれば 3,3millions と推定されています。

ベルギーが公式に Patrice Lumumba の暗殺に関与したことを認めたのは 2002 年 2 月初頭でした。

## 結論

国民国 Etat-Nation (Nation-State)が未成熟のまま民主主義体制をしくのはかなり無理があるのではないかと思います。



コンゴ領土内の国民を纏め上げる言語は、リンガラ語やスワヒリ語ではなく、フランス語になります。しかし、フランス語は支配者の言語です。便宜的に行政用語、教育用語としても日常の言語ではありません。日本国憲法には言語規定がありません。言語規定がないむしろ珍しい憲法なのです。コンゴの憲法上はその第一条に「公用

語はフランス語である Sa langue officielle est le français」と規定されています。しかし、国語はキコンゴ語、リンガラ語、スワヒリ語、チルバ語である Ses langues nationales sont le kikongo, le lingala, le swahili et le tshiluba。」となっています。従ってこれらの言葉を差別することなく教育上促進しなければなりません。（L'Etat en assure la promotion sans discrimination）。しかし、実態は小学生の高学年から、場合によっては初めからフランス語でしか教育がおこなわれていません。すなわち自らの言語が国民の統一性を保障しているとは言いがたいのです。ところが、多言語国家にあって、しかも外国語を公用語としている国もインドを始めとしてたくさんあります。従い言語については疑問を呈するにいまのところとどめておきます。しかしルムンバの当時、ベルギーの植民地政策の基本はフランス語さえも必要以上にはコンゴ人に対して教育しないというものでした。

次に領土です。国境を決めたのは一体誰でしょう。再び憲法をみますと、「1960 年 6 月 30 日の国境をもって領土とする La République Démocratique du Congo est, dans ses frontières du 30 juin 1960」とあります。日本国憲法には領土規定もありません。国民の定義も国籍法に委ねられ、かつ属地主義を採らないので（属人主義）そこにも日本とあってもどこまでが日本なのか定かではないのです。では 1960 年のコンゴの国境はどうして決まったのでしょうか。すでに述べたように、1885 年のベルリン会議後の Léopold II による私領

l'Etat Indépendant du Congo そのものが踏襲されたにすぎません。コンゴという名前の起源ともなった 13 世紀に起こったコンゴ王国はどこにいったのでしょうか。カタンガ州を中心としてアンゴラ、ザンビア(北ローデシア)に広がっていた Luba 王国のころの国民は何人<sup>なんびと</sup>なのでしょう。コンゴ川の北と南で現在国が別れています。Congo Brazzaville と Congo Kinshasa ですね。この二つの国の違いは何ですか。西欧列強によって作られたものです。

では民族はどうでしょう。民族とは一定の文化的特長を基準として他と区別される共同体だそうですが、フツ Hutu とかつチ Tutsi の区別もきわめて曖昧で、これまた西欧が統治政策上分割した不合理な民族差別です。一般的に RDC には 500 以上の民族がいると言われています。多民族国家も多数ありますから、民族が多いことが国民国家の定義から外れることありません。

1960 年の独立に際して、ルムンバは統一コンゴを主張しました。Tshombe がカタンガ独立ないし連邦制を考えていたのとは異なります。

ルムンバのいう統一コンゴはあくまで旧ベルギー領コンゴでした。この時点でコンゴという国民国家が成立していたのかどうかは極めて疑わしいのではないかと思うのです。ザイルと名前を変えて、モブツが彼一流のナショナリズム zairianisation を唱えたのは 1971 年のことです。RDC 国民が育ち始めたのはこのころからではないでしょうか。モブツのナショナリズムは多分にアフリカ諸国に対する人気取りの性格を帯びていました。しかし、文化政策(サッカー等のスポーツ振興、モブツ賛歌を歌わせた大掛かりな行事等)また企業の国営化政策(巨大国営企業 Gecamines 社創設(旧ベルギー Union minière du Haut Katanga)、中小企業まで一時国営化)を通してコンゴ人意識を確かに高めました。

ルムンバの神格化は、その悲劇的な運命に伴って、まずコンゴ以外のアフリカ諸国から始まったといえるでしょう。そしてソ連を含む社会主義国家が寄与しました。しかし、彼が社会主義者、ましてや共産主義者であったかどうかとも疑わしいと思います。モブツの国有化政策のほうが社会主義的であったともいえます。ルムンバはまずよりナショナリストであったとおもいます。非同盟政策に同調をみせましたが、当時の東西対立構造を上手く利用することに結局失敗しました。

ルムンバは言葉の人でした。

国連が 2000 年以来、Monuc (Mission d'Organisation des Nations Unies en RDC) という軍隊を送り、2006 年には憲法が公布され、大統領選挙および下院選挙が実施されました。2007 年今月さらに上院議員および知事・市長など地方選挙があります。正常化に向かっていることは確かなようです。しかし、行政の不存在、国民の疲弊、役人の不正、破壊されたインフラ、等々問題は山積しています。しかし、豊かな資源、発達した裏経済、明るい国民性、比較的高くなった教育を考えると、希望がないことはないのです。いま、ルムンバの言葉を思い出し、一丸となって平和に向かうならば、輝ける未来はまさに約束され



ているでしょう。

一方において作られた国境、強いられた国境の枠を超えて、中部アフリカとして、サハラ以南のアフリカとして、アフリカ大陸として連帯して行く方向がこれからのコンゴにとって望ましいと思われます。

ご参集またご清聴ありがとうございました。

最後にあたり、本日上映した映画『Lumumba』の監督 Raoul Peck の言葉を送ります。

「On dit que le fils de Tolenga est mort, mais ceux qui disent cela ne peuvent pas montrer son cadavre. (Raoul Peck) ルムンバは死んだという、しかし誰もこれがルムンバの亡骸だといって示したものはいない」(すなわちルムンバはわれわれの心の中に生きているのだ)。ラウル・ペック

上記は 2007 年 1 月 14 日湘南科学史懇話会における講演原稿です。

地球市民 田邊 好美(よしはる) 著

## 添付資料

1) 独立記念式典演説 (1960年6月30日、Léopoldville、国会にて)

1) 1960年6月30日の独立記念式典

コンゴ民主共和国首相兼国防大臣

パトリス・フムンバの演説

ベルギー外務省資料から

国民諸姉諸兄、

独立に向け戦い、今日勝利を勝ち取った戦士たちよ、  
コンゴ政府を代表して私はあなた方に敬意を表します。

皆さん、われわれの側で絶えず戦ってきた友人たち、あなた方に1960年6月30日という今日この日を、生涯心に消されることのない日として刻んでいただきたい。この日はわれわれの来るべき子供たちに胸をはってその意味を語る日なのです。将来これらの子供たちが親になったとき、彼らの子供たちへ、彼らの孫たちへと、自由のために戦ったこの輝ける歴史を語り伝えなければなりません。

われわれと対等の友好国ベルギーとの相互理解の下で今日コンゴ独立が宣言されるとするならば、誇り高きコンゴ人が決して忘れてはならないことがあります。即ち、この独立はわれわれが戦いを通して勝ち取ったものだということです。不断の戦い、理想に燃えた熱き戦い、われわれの力を惜しみなく投じた戦い、窮乏も苦痛をも顧みず、またわれわれの血をもって勝ち取ったものだということです。涙と火と血とからなる戦いは、われわれの心からの誇りです。それは気高く正義の戦いだったからです。強いられた屈辱的な奴隷制に終止符を打つために必要だった戦いだからです。

植民地下80年のわれわれの境涯は、われわれの受けた傷は、記憶から消し去るには尚あまりにも生々しく、あまりにも深いものです。

われわれは、飢えを満たし、普通に衣服をまとい、普通に住まい、愛する子らを育てることも出来ないような給与でもって重労働を強制されました。黒人だということで、朝に昼に晩にわれわれは嘲られ、誹謗され、打擲(ちょうちやく)されました。どうして黒人は「お前は」と呼ばれことを忘れられましょう。友人に対する親しい表現として発せられた「お前」では勿論なく、「あなたは」という尊敬語が、白人が白人を呼ぶときだけに用いられた言葉だということを忘れられましょう。

強者の権利しか守らない法律に基づいて、合法だと称する証文で土地を巻き上げられました。法律は決して平等ではなく、白人なのか黒人なのかによってその適用が異なり、一方には強調的であり、また他方には残酷で非人間的なものでした。政治的な意見や信仰のために追放されたものたちが蒙った過酷な苦しみをわれわれは知っています。祖国を追われた者の運命は死よりも悲惨です。白人たちのためには瀟洒な家々があり、黒人たちには今にも倒れそうな藁葺き小屋があったのです。黒人たちは映画館、レストラン、ヨーロッパ人専用だという商店に入れませんでした。船に乗れば白人は豪華な客室、黒人は白人の足下の船底で旅しなければなりませんでした。

我が同胞(はらから)を死に追いやった銃殺を、不正な権力に組することを拒んだ人々を

情け容赦なく放り込んだ監獄を一体誰が忘れることができましょう。

そうしたすべて、みなさん、われわれは苦しみ抜きました。しかし、それも、あなた方の代表者たちの投票でこの愛する国の将来を託されたわれわれが、植民地主義の圧制に心身ともに苦しんだわれわれが、そうしたことすべてがここに終わりを告げたのだと約束しましょう。

コンゴ共和国が宣言されました。われわれの愛する国は今や国民自身の掌中にあるのです。

(原文)

**Discours de Patrice LUMUMBA,**

Premier ministre et ministre de la défense nationale de la République du Congo,  
à la cérémonie de l'Indépendance à Léopoldville le 30 juin 1960.

dans « Textes et Documents », no 123,  
Ministère des Affaires Étrangères, Bruxelles.

Congolais, Congolaises,

Combattants de l'indépendance, aujourd'hui victorieux.

Je vous salue au nom du gouvernement congolais.

« A vous tous, mes amis qui avez lutté sans relâche à nos côtés, je vous demande de faire de ce 30 juin 1960 une date illustre que vous garderez ineffaçablement gravée dans vos cœurs, une date dont vous enseignerez avec fierté la signification à vos enfants, pour que ceux-ci à leur tour fassent connaître à leurs fils et à leurs petits-fils l'histoire glorieuse de notre lutte pour la liberté.

Car cette indépendance du Congo, si elle est proclamée aujourd'hui dans l'entente avec la Belgique, pays ami avec qui nous traitons d'égal à égal, nul Congolais digne de ce nom ne pourra jamais oublier cependant que c'est par la lutte qu'elle a été conquise, une lutte de tous les jours, une lutte ardente et idéaliste, une lutte dans laquelle nous n'avons ménagé ni nos forces, ni nos privations, ni nos souffrances, ni notre sang. C'est une lutte qui fut de larmes, de feu et de sang, nous en sommes fiers jusqu'au plus profond de nous-mêmes, car ce fut une lutte noble et juste, une lutte indispensable pour mettre fin à l'humiliant esclavage, qui nous était imposé par la force.

Ce que fut notre sort en 80 ans de régime colonialiste, nos blessures sont trop fraîches et trop douloureuses encore pour que nous puissions les chasser de notre mémoire.

Nous avons connu le travail harassant exigé en échange de salaires qui ne nous permettaient ni de manger à notre faim, ni de nous vêtir ou de nous loger décentement, ni d'élever nos enfants comme des êtres chers. Nous avons connu les ironies, les insultes, les coups que nous devions subir matin, midi et soir, parce que nous étions des nègres. Qui oubliera qu'à un noir on disait « Tu », non certes comme à un ami, mais parce que le « Vous » honorable était réservé aux seuls blancs ?

Nous avons connu nos terres spoliées au nom de textes prétendument légaux, qui ne

faisaient que reconnaître le droit du plus fort, nous avons connu que la loi n'était jamais la même, selon qu'il s'agissait d'un blanc ou d'un noir, accommodante pour les uns, cruelle et inhumaine Pour les autres. Nous avons connu les souffrances atroces des relégués pour opinions politiques ou, croyances religieuses : exilés dans leur propre patrie, leur sort était vraiment pire que la mort même. Nous avons connu qu'il y avait dans les villes des maisons magnifiques pour les blancs et des paillotes croulantes pour les noirs : qu'un noir n'était admis ni dans les cinémas, ni dans les restaurants, ni dans les magasins dits européens, qu'un noir voyageait à même la coque des péniches au pied du blanc dans sa cabine de luxe.

Qui oubliera, enfin, les fusillades où périrent tant de nos frères, ou les cachots où furent brutalement jetés ceux qui ne voulaient pas se soumettre à un régime d'injustice ?

Tout cela, mes frères, nous en avons profondément souffert, mais tout cela aussi, nous, que le vote de vos représentants élus a agréé pour diriger notre cher pays, nous qui avons souffert dans notre corps et dans notre cœur de l'oppression colonialiste, nous vous le disons, tout cela est désormais fini.

La République du Congo a été proclamée et notre cher pays est maintenant entre les mains de ses propres enfants (...) ».

## 2 ) Patrice Lumumba の遺書 (1961年1月、キンシャサの獄中にて)

### ルムンバの遺言

1960年 - 1961年冬

最愛の妻よ、この手紙が君の手元に届くかどうか、これを君が読むときこの世に生がまだあるかどうか、それを知る術なく君に書き記す。この国の独立のために僕は闘い続けてきた。その間、仲間たちや僕たちが一生を賭けた大儀の最後の勝利を一瞬たりとも疑ったことはない。だが、僕たちが援助を依頼したとき全幅の信頼を抱いた国連も、その国連の高官たちの前で明示的な或いは暗黙の支持、直接また間接の支持を与えたベルギーの同盟国やベルギーの植民地主義者は、僕たちがこの国に望んだこと、名誉ある生、妥協なき尊厳、制限なき独立をまるで欲しなかった。

彼らは僕らの同胞のある者たちを墮落させ、同胞の別の者たちを買収した。また彼らは真実を歪曲させ、僕らの独立を覆すことに寄与した。それ以外になんと言えようか。僕が死のうが生きようが、自由の身だろうが植民地主義者の手にかかって投獄されようが、僕の身柄が問題なのではない。彼らが国の独立というものを哀れな茶番劇にしてしまったコンゴそしてその惨めな人民こそが問題なのだ。僕の信念は揺がない。

存在の根底で僕は知っているし感じてみいる。早晩コンゴ人民は内部の敵を葬り去り、とりまく下劣で屈辱的な植民地主義者にたった一人で「否(ノン)」といい、輝く太陽のもと



自らの尊厳を打ち立てる人間のように立ち上がるだろうと。僕らは孤立していない。アフリカで、アジアで、世界の隅々の自由で開放された人民は、植民地主義者たちと彼らに雇われた者たちがこの国にいる限り、戦うことを止めない数百万のコンゴ人たちの側に立つだろう。

子供たちよ、僕はもう二度と君たちに見えることが出来ないかもしれない。僕は君たちに伝えたい。コンゴの未来は美しいと。そしてコンゴの未来は君たちにまたすべてのコンゴ人にこの国の独立と主権を再建するという高邁な仕事の実現に期待を寄せているのだと。なぜなら尊厳なくして自由はなく、正義なくして尊厳はない。また独立なくして自由な人間はないのだから。

暴行、虐待、拷問などを受けても僕は命乞いなどしかなかった。なぜなら、僕にとって掛替えのない主義を裏切ってまで膝を折って生きるよりも、確固たる意志を持ち、この国の運命に深い信頼を寄せて、むしろ胸を張って死を選んだほうがまだからだ。

歴史は何時か審判を下すだろう。しかし、その歴史は、ブラッセルで、パリで、はたワシントンや国連で教えられる歴史ではない。それは植民地主義者とその傀儡から解放された国々に於いて教えられる歴史だ。アフリカは自らの歴史を書くであろう。その歴史は、サハラ以北や南にあって、栄光と尊厳の歴史であろう。妻よ、僕のために泣いてくれるな。僕は今深く耐え忍んでいるこの国が、自らの独立と自由を守る術を何時か知るだろうと分かっている。

コンゴ万歳！  
アフリカ万歳！

(原文)

### **Testament de Patrice Lumumba**

Ma chère compagne, je t'écris ces mots sans savoir s'ils te parviendront et si je serai encore en vie lorsque tu les liras. Durant toute ma lutte pour l'indépendance de notre pays, nous n'avons jamais douté un instant du triomphe final de la cause sacrée à laquelle mes compagnons et moi avons consacré notre vie. Mais ce que nous voulions pour notre pays, son droit à une vie honorable, à une dignité sans compromis, à une indépendance sans restriction, le colonialisme belge et ses alliées occidentaux, qui ont trouvé un appui direct et indirect, déclaré ou non déclaré, auprès de certains hauts fonctionnaires des Nations Unies - cet organisme dans lequel nous avons placé toute notre confiance, lorsque nous avons fait appel à son assistance - ne l'ont jamais voulu.

Ceux-ci ont corrompu certains de nos compatriotes, ils en ont acheté d'autres, ils ont contribué à déformer la vérité et à saper notre indépendance. Que puis-je dire d'autre ?

Que je sois mort ou vivant, libre ou prisonnier par ordre des colonialistes, ce n'est pas ma personne qui compte, mais le Congo et notre pauvre peuple dont ils ont transformé l'indépendance en triste farce. Ma foi restera inébranlable.

Je sais et sens dans le fond de mon être que tôt ou tard mon peuple se débarrassera de tous ses ennemis intérieurs, qu'il se lèvera comme un seul homme pour dire "Non" au colonialisme dégradant et humiliant, et pour instaurer sa dignité sous un soleil éclatant. Nous ne sommes pas seuls. L'Afrique, l'Asie et les peuples libres et libérés de tous les coins du monde se trouveront toujours aux côtés des millions de Congolais qui ne cesseront la lutte tant que les colonialistes et leurs mercenaires se trouveront dans notre pays.

A mes fils, que j'ai quittés peut-être pour ne plus jamais les revoir, je veux qu'on dise que l'avenir du Congo est beau et qu'il attend d'eux et de tous les Congolais la réalisation de la tâche sacrée de reconstruire notre indépendance et notre souveraineté ; parce que sans dignité il n'y a pas de liberté ; sans justice il n'y a pas de dignité et sans indépendance il n'y a pas d'hommes libres.

La brutalité, les sévices, les tortures ne m'ont jamais amené à implorer la grâce parce que je préfère mourir la tête haute, avec la foi indestructible et la confiance profonde dans la destinée de notre pays plutôt que de vivre dans la soumission en ayant renié les principes qui me sont sacrés.

L'histoire prononcera un jour son jugement, mais ce ne sera pas l'histoire qu'on enseignera à Bruxelles, à Paris, à Washington ou aux Nations Unies ; ce sera celle qu'on enseignera dans les pays affranchis du colonialisme et de ses fantoches. L'Afrique écrira sa propre histoire et elle sera, au Nord et au Sud du Sahara, une histoire de gloire et de dignité. Ne me pleure pas, ma compagne. Je sais que mon pays qui souffre tant saura défendre son indépendance et sa liberté.

Vive le Congo ! Vive l'Afrique !

### 3 ) 年表

#### RDC 年表

1885 年	アフリカ分割ベルリン会議
1925 年 7 月 2 日	Patrice Lumumba、東カサイ州の Onalowa 村で誕生
1959 年 1 月 4 日	Leopoldville の Place de la Victoire 事件
1960 年 6 月 30 日	コンゴ民主共和国独立
1960 年 7 月 11 日	Moise Tshombe がカタンガ州独立を宣言
1960 年 8 月 9 日	Kalonji Mulopwe が南カサイ州独立を宣言

1960年9月	Kasavubu が Lumumba を罷免
1960年12月	Mobutu が Lumumba を逮捕
1961年1月17日	Patrice Lumumba 暗殺
1961年1月20日	ケネディー米大統領就任
1965年10月23日	モブツによる coup d'état
1966年	Mobutu により Lumumba は国民的英雄に。
1996年-1997年	第一次コンゴ戦争
1997年	Mobutu 国外逃亡
1998年-2002年	第二次コンゴ戦争（アフリカ史最悪最大の戦争）

#### 4) 詳しい年表 (フランス語)

LES GRANDES DATES: avant 1960 - après 1960

VIe siècle

500 Date approximative de la formation de l'unité kuba d'où est né le royaume **Kuba**, fondé par Woot, le Nyimi, roi mythique dont le descendant actuel Kwete Mbokashanga serait le 124e successeur.

520 à 845 Formation de l'unité **Luba** qui donnera naissance au premier empire Mulopwe, roi, historiquement connu est Nkongolo Mwamba qui semble avoir régné au XVIe siècle.

XIIIe siècle

1275 Date hypothétique de la formation du **royaume Kongo** par Nimi a Lukenie, alias Ntinu Wene.

XVe siècle

1482 Diego Cão, navigateur portugais, découvre l'embouchure du fleuve Congo et fonde une colonie. Il n'a atteint effectivement cette embouchure qu'en 1483, inaugurant ainsi les contacts entre les peuples locaux, notamment les Kongo, et les Européens.

1491 Les premiers missionnaires catholiques arrivent au royaume Kongo et entament officiellement la première évangélisation du pays (1483-1835) par le baptême, le 3 mai, du Mani Kongo (roi) Nzinga Nkuwu et de sa cour. Le roi se prénomme alors Joao et devient Joao I Nzinga Nkuwu.

1498 L'arrivée en Amérique du premier navire transporteur d'esclaves, **inaugure la traite des esclaves** dans l'Atlantique, fléau qui trois siècle et demi durant, de **1550 à 1880**, eut entre autres conséquences, le dépeuplement de l'Afrique et la désorganisation de ses structures politiques et sociales.

XVIe siècle

Formation du royaume Luba (Shaba central). Les portugais établissent une forme de protectorat et évangélisent le Kongo. Ils se désintéressent pourtant du royaume à la fin

du siècle et se tournent vers l'Angola où la traite des esclaves est plus facile. Ce siècle marque aussi le début de la traite dans le bas Congo.

#### XVIIe siècle

Les Hollandais prennent les ports de San Thomé et Saint-Paul de Loanda (1641) à l'embouchure du Congo. Les capucins italiens poursuivent l'évangélisation dans le royaume Kongo en déclin. Ce siècle voit l'essor des royaumes Kouba (Kasaï) et Lunda (Kasaï et Bandundu) et le début de la traite des esclaves dans le bas Kasaï et le Katanga (Shaba).

#### XIXe siècle

Les Zandés, guerriers originaires de l'actuel Soudan, s'établissent dans le nord.

1815 Nabilembali fonde le royaume Mangbetu (nord-est).

1816 L'Anglais James Kingdon Tuckey(1776-1816) remonte le fleuve Congo jusqu'aux chutes de Yelala et inaugure ainsi la période des "explorations scientifiques du 19e siècle" en Afrique centrale et australe.

La puissance des chefferies Zandé s'accroît considérablement grâce à la traite des esclaves et au commerce des armes.

1869 Msiri fonde dans le sud-est le royaume des Garengazé.

1874-78 Le Congo est exploré par **Henry Morton Stanley** (1841-1904), d'abord pour son propre compte, puis pour l'AIC (Association Internationale du Congo). Il traverse le continent d'est en ouest et descend le fleuve Congo jusqu'à son embouchure. Des négriers de Zanzibar commencent à pénétrer dans la zone forestière et à s'installer à l'ouest du Lualaba.

Septembre 1876 Le Roi de Belgique, Léopold II, organise une conférence géographique internationale débouchant sur la création de l'AIA (Association Internationale Africaine) dont l'objectif est « d'ouvrir l'Afrique à la civilisation et d'abolir la traite des esclaves ». Cette conférence, tenue à Bruxelles, définit une "zone d'action" à l'intérieur du continent africain, délimitée au nord par le Soudan égyptien, au sud par le bassin du zambèze, à l'est et à l'ouest par les océans.

30 octobre 1878 Léopold II conclut un accord avec Stanley pour la création de postes au Congo et la négociation de traités avec les chefs locaux, au nom de l'AIA devenu ensuite CEHC (Comité d'études du Haut-Congo).

8 août 1880 Ouverture à Boma, par les missionnaires catholiques, de la première école du Congo, comptant dès le départ une vingtaine d'enfants.

1883 Congo devient l'AIC (Association Internationale du Congo), présidée par Léopold II.

**15 novembre 1884 Au Congrès de Berlin**, l'AIC devient l'Etat Indépendant du Congo (EIC) dont le souverain est Léopold II et ayant son gouvernement à Boma, ensuite à Léopoldville.

**26 février 1885** L'acte final de la **conférence de Berlin** fixe le statut conventionnel du bassin du Congo (liberté de commerce et de navigation sur le fleuve) et les limites de



l'Etat Indépendant du Congo. Léopold II obtient le Katanga en compensation des territoires qu'il a dû céder à la France. La souveraineté personnelle du roi des Belges se substitue à celle de l'Association Internationale et le nouvel Etat du Congo obtient la reconnaissance des puissances internationales. Léopold II constitue à Bruxelles le gouvernement du Congo (6 mai) et sur place, le remplaçant de Stanley, Sir Francis de Winton, prend le titre d'administrateur général. Le territoire est divisé en districts dirigés par des commissaires.

1888 Organisation de la "Force publique".

1889 Léopold II déclare que "les terres vacantes doivent être considérées comme appartenant à l'Etat".

1891 C'est le début de l'exploitation intensive de l'ivoire et du caoutchouc naturel, produits des terres domaniales réservés à l'Etat. L'Etat libre est organisé en unités de gouvernement local établies à partir des institutions politiques traditionnelles. Les autorités de l'EIC commencent à se heurter à la résistance de chefs locaux et des Arabes, qui tiennent près d'un tiers du pays. La Force publique défait Msiri, assurant l'emprise de l'EIC sur le sud-est.

1892 L'expédition géologique Bia-Francqui-Cornet démontre l'existence de ressources minières au Katanga.

1895 Cette année est marquée par la mutinerie de la garnison de la Force publique de Luluabourg et par la conquête de l'ancien royaume Mangbetu.

Instauration de l'immatriculation des Congolais aux registres de la population "civilisée" et octroi corrélatif aux bénéficiaires de celle-ci des droits civils européens.

1897 C'est le début de la mise en place d'un système de "cultures gouvernementales", imposées aux populations (coton et cacao).

1898 Ouverture de la ligne de chemin de fer Matadi-Léopoldville.

XXe siècle

1903-1904 Les abus du régime léopoldien sont dénoncés en Grande-Bretagne par la Congo Reform Association.

24 juillet 1904 Création d'une commission internationale pour enquêter sur les pratiques utilisées dans la production du caoutchouc (politique des mains coupées, prises d'otages...)

Entre le 27 février et le 2 mars 1906 Scandale suite aux accusations de parlementaires belges.

13 décembre 1906 L'Etat indépendant du Congo est annexé à la Belgique.

20 août 1908 Publication d'une charte faisant du Congo une colonie belge. La Belgique prend la responsabilité formelle de la colonie. Cette charte coloniale fixe le statut administratif et politique du Congo : le roi légifère en collaboration avec le ministre des colonies et avec l'assistance d'un conseil colonial. Le gouverneur général dispose du pouvoir local et gouverne par voie d'ordonnances. Une commission de protection des indigènes, présidée par le procureur général à Léopoldville et indépendante du

gouverneur, est instituée. Le gouvernement belge organise un enseignement pour la formation des auxiliaires de l'administration et des Européens expatriés.

1911 Le Katanga est relié par rail à l'Afrique du Sud.

1913 Ce sont les débuts de l'exploitation industrielle du cuivre. Par ailleurs, les premiers diamants sont découverts au Kasai.

1916 Le paiement des salaires en numéraire est imposé, ce qui conditionne en retour le versement de l'impôt en argent, exigible de tous les adultes valides.

1917 Introduction du coton dans la région du Maniema. Les mines de diamant du Kasai commencent à être exploitées.

1920 Le ministre des colonies, Louis Franck, rend un rapport qui fixe dans ses grandes lignes la politique indigène, l'organisation des chefferies, des secteurs et des tribunaux indigènes. Il recommande la constitution de grandes unités administratives dotées d'institutions gouvernementales modernes, appelées secteurs.

Publication de l'Avenir colonial belge, premier grand quotidien du Congo Belge.

1921 Développement dans le Bas-Congo du Kibanguisme, secte d'inspiration chrétienne fondée par Simon Kibangu.

1924 Installation au Congo Belge de la Croix-Rouge Internationale dont le premier centre d'assistance sera ouvert en 1925 à Pawa, dans l'actuelle Région du Haut-Zaïre.

1925 Développement de l'islam au Maniema au centre du pays. La secte Kitawala, qui prêche le prochain départ du colonisateur blanc, se développe au Katanga.

1928 Mise en service du chemin de fer BKC (Bas-Congo-Katanga).

1931 Grande révolte des Bapendé, au nord-est, causée par la diminution des revenus paysans.

1933-34 Réorganisation administrative : le gouvernement général Auguste Tilkens décrète une centralisation radicale. Le statut spécial de vice-gouvernement général du Katanga est supprimé. Généralisation du système des secteurs. Création de deux nouvelles provinces (Kasai et Kivu) qui viennent s'ajouter aux quatre déjà existantes (Congo Kasai -plus tard Congo Léopoldville- Equateur, Province orientale et Katanga).

5 décembre 1935 La durée maximale des travaux et cultures obligatoires est fixée à 60 jours par an.

**1939-45 Participation du Congo à l'effort de guerre** allié sous la direction de Paul Ryckmans.

4 décembre 1941 Premières grèves des travailleurs congolais à Jadotville (Likasi) et à Elisabethville (Lubumbashi). Terminées par des massacres dans cette dernière ville, ces grèves sont restées comme la plus grande manifestation de la conscience ouvrière au Congo Belge.

1942 La durée du travail obligatoire passe à 120 jours par an.

1944 Révoltes au Katanga et au Kasai provoquées par le recrutement massif de travailleurs pour les mines et la détérioration des conditions de travail.

20 février 1944 Mutinerie de la Force publique de Luluabourg.

1948 Grande année sociale au Congo Belge marquée notamment par la reconnaissance du **droit de grève** aux travailleurs Congolais, la fixation d'un **salaire minimum légal**, SMIL, par l'administration coloniale et l'organisation pour la première fois à Léopoldville du **transport en commun** assuré par des "fula-fula", grands camions carrossés transformés en autobus et réputés pour leur rapidité.

1950 Création de l'ABAKO (Association des Bacongo).

4 avril 1950 Interdiction de la polygamie au Congo Belge

1951 Fondation du groupement "Conscience africaine".

1954 Ouverture de l'université Lovanium de Léopoldville, l'actuelle Université de Kinshasa, UNIKIN, la première du Zaïre et d'Afrique centrale.

1955 Visite du roi Baudouin qui lance l'idée d'une communauté belgo-congolaise. Plan de 30 ans du Pr Van Bilsen qui insiste sur la nécessité de mettre en place une structure fédérale, de former des élites congolaises et de favoriser leur accession progressive aux "leviers de commande". Le ministre des colonies, Buisseret, ouvre trois écoles d'administration.

1956 L'association, Conscience africaine, publie un manifeste qui rejette l'idée de communauté belgo-congolaise, mais se rallie au **'Plan de 30 ans'**, à condition que les Congolais soient associés à sa mise en oeuvre. L'Abako critique le délai proposé et demande l'application immédiate des libertés fondamentales. Le fils de Simon Kibangu, Joseph Diangienda, fonde l'Eglise de Jésus-Christ sur la Terre par le prophète Simon Kibangu (EJCSK) qui se pose en église nationale du Congo.

Ouverture de l'université officielle du Congo à Elisabethville, UOC, l'actuelle université de Lubumbashi, UNILU, deuxième université du pays.

Formation de la première sélection nationale de footballeurs congolais dénommée "Les Lions", base de l'équipe nationale de football devenue en 1966, les Léopards.

1958 Mise en place expérimentale de conseils municipaux élus à Léopoldville, Elisabethville et Jadotville.

Octobre 1958 **Patrice Lumumba fonde le Mouvement national congolais** qu'il représente à la conférence panafricaine d'Accra.

**4 janvier 1959** L'interdiction d'une réunion de l'Abako déclenche à Léopoldville une émeute sévèrement réprimée (**42 morts**).

11 janvier 1959 L'Abako est dissoute.

13 janvier 1959 Le Roi Baudouin s'engage à "conduire... les populations congolaises à l'indépendance ..." et annonce pour décembre des élections locales au suffrage universel et des conseils communaux dans tous les centres urbains.

23 juin 1959 Le président de l'Abako, Joseph Kasa Vubu, demande la création, dans l'ouest du pays, d'une république du Kongo.

Décembre 1959 La loi martiale est instituée dans le sud-Kasaï afin de stopper les affrontements entre Lulua et "immigrés" Luba. Une coalition comprenant l'Abako, le PSA (Parti Solidaire Africain) d'Antoine Gizenga (Kwilu, à l'est) et le MNC d'Albert

Kaloji et Joseph Iléo (Kasaï) demande la convocation à Bruxelles d'une table ronde.

29 janvier 1960 Début de la table ronde belgo-congolaise, qui fixe au 30 juin la date de l'indépendance, et qui est suivie d'une table ronde économique en février.

Entre le 10 et 18 mai 1960 Le Parlement belge vote la Loi fondamentale du futur état.

Mai 1960 Les élections sont remportées par le MNC de Patrice Lumumba qui est élu chef de gouvernement.

Juin 1960 Joseph Kasavubu devient Président.

23 juin 1960 Patrice Lumumba est nommé Premier ministre.

**30 juin 1960 Jour de l'Indépendance du Congo** est marqué par le départ des cadres belges et le début de la guerre civile. Le Congo belge est rebaptisé Congo-Léopoldville.

6 juillet 1960 Mutinerie de la Force publique.

7 juillet 1960 Les forces militaires belges interviennent pour protéger la vie des Belges et mater la mutinerie de la Force publique.

**11 juillet 1960** Le Katanga (Shaba actuel), appuyé par les Belges, proclame son indépendance avec **Moïse Tshombé** (président de la Conakat) comme Président. Fin de l'Indépendance du Katanga le 15 janvier 1963.

12-13 juillet 1960 Le Premier ministre, Patrice Lumumba, et Kasa Vubu demandent une intervention armée de l'ONU.

14 juillet 1960 Le Conseil de Sécurité de l'ONU vote une résolution demandant à la Belgique de retirer ses troupes, qui seront remplacées par des casques bleus (environ 19.000 hommes).

16 juillet 1960 Débarquement des premiers casques bleus de l'opération des Nations Unies pour le Congo (ONUC).

5 août 1960 Le Président congolais, Kasavubu, avec l'assentiment de l'ONU, démet Patrice Lumumba et nomme Joseph Ileo Premier ministre.

**Août 1960 Albert Kalondji** se proclame empereur des Balubas et chef de l'Etat autonome du Sud-Kasaï (jusqu'en septembre 1962).

**14 septembre 1960 Le colonel Mobutu fomenté un coup d'Etat militaire.** Le Parlement et la Constitution sont suspendus.

19 septembre 1960 Le colonel Mobutu instaure un Collège des Commissaires généraux remplaçant les organes du pouvoir.

20 septembre 1960 La République du Congo, état souverain, est admis comme membre de l'ONU.

9 décembre 1960 Patrice Lumumba est arrêté.

17 janvier 1961 Mobutu envoie Lumumba à Elisabethville au Katanga où il est assassiné dès son arrivée.

9 février 1961 Un gouvernement provisoire, dirigé par Joseph Iléo, remplace le Collège des commissaires généraux.

2 août 1961 Réunion du Parlement qui confie le gouvernement à Cyrille Adoula, co-fondateur du MNC, avec **Gizenga** comme vice-Premier ministre.

15 janvier 1963 Les forces de l'ONUC s'emparent d'Elisabethville et mettent fin à la sécession katangaise.

Septembre - octobre 1963 Le président Kasa Vubu suspend le Parlement; l'opposition se trouve de ce fait rejetée dans la clandestinité.

**Décembre 1963 Pierre Mulele** déclenche une guerre révolutionnaire au Kwilu.

1964 Gaston Soumialot prend le contrôle de l'est du pays où, à Stanleyville, il constitue un gouvernement de la République populaire du Congo, concurrent de la République démocratique du Congo, créée à Léopoldville après référendum.

Mars 1964 La Belgique passe une convention avec le Congo pour régler le contentieux financier entre les deux pays (le portefeuille de l'ancien Congo belge reste au Congo et la dette, contractée par la Belgique au nom du Congo, est partagée en deux).

10 juillet 1964 Moïse Tschombé est rappelé après la reprise des révoltes et constitue un gouvernement de Salut public dont la tâche sera en priorité la réconciliation et la pacification.

**1 août 1964** Nouvelle constitution de type fédéral, autorisant le multipartisme (proclamation de la constitution de Luluabourg). Le pays est divisé en 21 "provincettes" correspondant aux anciens districts. A cette occasion, le **pays se dénomme officiellement la République Démocratique du Congo.**

24 - 26 novembre 1964 Tshombé met un terme au gouvernement de Stanleyville où des commandos belges, assistés de troupes britanniques et américaines, sont parachutés.

3 février 1965 Elections législatives.

**23 octobre 1965** Le président Kasa Vubu remplace Tshombé par Evariste Kimba.

**24 novembre 1965 Un coup d'état, mené pour la seconde fois par le général Mobutu**, né le 14 octobre 1930, renverse le Président Kasavubu et le Premier ministre Evariste Kimba. Il saisit l'occasion pour dénoncer la corruption entre le Congo et la Belgique. Il s'octroie les pleins pouvoirs, interdit l'activité des partis politiques pour une durée de 5 ans, réduit la rémunération des fonctionnaires et suspend le droit de grève.

3 mai 1966 Débaptisation de la capitale et de certaines villes du pays.

2 juin 1966 Kimba et trois anciens ministres sont pendus.

30 juin 1966 Le Congo-Léopoldville est rebaptisé Congo-Kinshasa.

Décembre 1966 L'Union minière du Haut-Katanga est nationalisée.

20 mai 1967 Publication du manifeste de la N'Sele, la charte du Mouvement Populaire de la Révolution, MPR, donnant son programme et ses grandes options, marque la naissance officielle de ce parti créé depuis le 18 avril 1967.

Juin 1967 Création du zaïre-monnaie avec comme parité : 1BEF = 0,01 z

21 juin 1967 Suite à un référendum, un régime plébiscitaire est institué avec un parti unique, le Mouvement Populaire de la Révolution (MPR).

30 juin 1967 Moïse Tschombé est kidnappé dans un avion privé et incarcéré en Algérie où il meurt le 30 juin 1969.

Août 1969 L'Eglise congolaise dénonce les "penchants dictatoriaux" du régime Mobutu.

Le Président Mobutu lance un plan économique qui permettra de doubler la production de cuivre.

31 octobre 1970 Mobutu est élu Président.

**21 octobre 1971 La République du Congo prend le nom de Zaïre** et adopte un nouveau drapeau et hymne national. C'est aussi le "retour à l'authenticité", avec le lancement d'un nouveau vêtement : l'abacost ("à bas le costume")

Janvier 1972 L'Etat entre en conflit avec l'Eglise catholique et le cardinal Malula est expulsé.

15 février 1972 Les noms et prénoms chrétiens sont supprimés et les noms de lieux sont africanisés au nom de l'authenticité.

1973 **Nationalisation** des grandes entreprises

30 novembre 1973 Le Président Mobutu prononce un discours consacré à la **zaïrianisation** du pays.

22 mai 1974 Un protocole d'accord de coopération militaire est signé avec la France (assistance et formation).

Novembre 1974 Nationalisation des PME (Zaïrianisation)

1975 Le Zaïre soutient le FNLA dans la guerre civile qui secoue l'Angola.

Juin 1975 Un complot contre Mobutu est déjoué.

Entre le 7 et le 9 août 1975 Le Président français, Valéry Giscard d'Estaing, est accueilli au Zaïre.

17 septembre 1976 Faisant marche arrière, l'Etat zaïrois revient à une économie mixte (60 % de la valeur des sociétés privées est rétrocédée aux anciens propriétaires).

**Mars 1977 Première invasion du Shaba** qui, avec le soutien marocain, sera stoppée.

Juillet 1977 Mobutu annonce une démocratisation du MPR, une décentralisation et la création du poste de Premier commissaire d'Etat (Premier ministre).

Décembre 1977 Réélection à la présidence de Mobutu, candidat unique.

Février 1978 Nouveau complot contre Mobutu, déjoué et qui débouchera sur 13 exécutions.

**11 mai 1978 4 000 rebelles (anciens gendarmes Katangais)**, venus d'Angola, assiègent Kolwezi au Shaba. Des Européens sont massacrés, selon les sources, par les rebelles ou par l'armée.

19 mai 1978 Les parachutistes français du 2e REP (la Légion) et belges sautent sur Kolwezi (mort de 700 Zaïrois, 91 étrangers, 5 paras français et 1 para belge).

21 mai 1978 Les Européens sont rapatriés en Europe.

Juin 1978 Création d'une force interafricaine (Maroc, Gabon, Sénégal, Côte d'Ivoire et Togo).

19-20 août 1978 Le Président Mobutu rencontre son homologue angolais, Neto, à Kinshasa.

30 juin 1979 Les Forces Armées zaïroises relèvent la force interafricaine.

Juillet 1979 L'armée tire sur des chercheurs de diamants indépendants au Kasai; le



bilan est très lourd (plus de 200 morts) ce qui provoque les réactions indignées de parlementaires, dont celles de Tshisekedi, originaire du Kasai.

Avril 1980 Le pape Jean-Paul II est reçu au Zaïre.

Octobre 1980 Lettre ouverte à Mobutu, très critique, de treize parlementaires parmi lesquels, Etienne Tshisekedi.

Décembre 1980 Début des arrestations et des relégations parmi les "Treize"

Février 1982 Création par les "treize" d'un parti d'opposition, l'UDPS (Union pour la Démocratie et le Progrès Social)

Juin 1982 Les "Treize" sont condamnés à 15 ans de prison.

Octobre 1982 Tenue du sommet franco-africain à Kinshasa.

11 décembre 1982 Le Président Mobutu est promu à la dignité de Maréchal.

20 mai 1983 Inauguration du pont Matadi, qui réunit les deux rives du fleuve Zaïre et long de 722 mètres.

28 juillet 1984 Mobutu est réélu Président.

1 décembre 1984 Le Président français François Mitterrand est en visite officielle au Zaïre.

30 juin 1985 Le Zaïre fête ses 25 ans d'indépendance avec un faste tout particulier. A cette occasion, le Roi Baudouin se rend en visite officielle au Zaïre.

6 août 1985 Philippe de Dieuleveult, animateur TV, et 6 coéquipiers français de l'expédition Africa Raft disparaissent en descendant le fleuve Zaïre. Disparition non-élucidée à ce jour.

15 août 1985 Pendant la visite pastorale du pape Jean-Paul II, a lieu à Kinshasa la béatification de Sœur Anuarite Nengapeta, vierge et martyre zaïroise, tuée le 1er décembre 1964 à Isiro durant la rébellion.

Octobre 1986 Kinshasa limite les remboursements de sa dette à 10 % des revenus de ses exportations.

Janvier 1988 Arrestation d'Etienne Tshisekedi, qui sera libéré en septembre.

Octobre 1988 Manifestations contre Mobutu, durement réprimées.

Novembre 1988 Le Premier ministre belge, W. Martens propose la remise d'une partie de la dette zaïroise - trop, dit-on à Bruxelles, trop peu, dit-on au Zaïre. Kinshasa rejette l'offre et appelle les Zaïrois à quitter la Belgique.

Janvier 1989 Le gouvernement zaïrois dénonce les « accords léonins » le liant à la Belgique.

26 juillet 1989 La Belgique et le Zaïre signe un accord qui conduit à l'annulation de 11 milliards de francs belges de dette zaïroise et au renouvellement de la coopération belge.

7 avril 1990 Lunda Bululu est nommé Premier ministre de transition.

24 avril 1990 Mobutu annonce la fin du parti unique.

**11-12 mai 1990 Massacre à l'université de Lubumbashi.** Plus de 500 étudiants qui y manifestaient sont tués par des éléments de la garde présidentielle (DSP).

22 juin 1990 700 coopérants belges sont renvoyés.

Août 1990 Création du Front uni de l'opposition qui met au point une charte réclamant la tenue d'une conférence nationale.

18 décembre 1990 Autorisation du multipartisme.

9 avril 1991 Mulumba Lukoji est nommé Premier Ministre.

Entre le 13 et le 15 avril 1991 Des manifestations font 42 morts à Mbuji-Mayi.

Août 1991 Début de la Conférence nationale

**23-24 septembre 1991 Les grandes villes zaïroises vivent à l'heure des pillages,** mouvement lancé par les militaires, privés de leur soldes. Ces émeutes font officiellement 117 morts.

25 septembre 1991 La France lance une intervention militaire avec l'envoi de 4 compagnies de légionnaires et d'infanterie de marine (600 hommes) et 4 compagnies prélevées sur la FAR (600 hommes). Les paras belges interviennent pour évacuer les expatriés (**opération Blue Beam**).

1 octobre 1991 Etienne Tshisekedi est nommé Premier ministre, avant d'être limogé trois semaines plus tard (21 octobre)

22 octobre 1991 Des émeutes à Lubumbashi font 10 morts.

23 octobre 1991 Mungul Diaka est nommé Premier ministre

25 novembre 1991 Nguza Karl-I-Bond est nommé Premier ministre.

19 janvier 1992 Le président Mobutu supprime la Conférence nationale.

16 février 1992 L'armée zaïroise tire dans la foule lors d'une marche des chrétiens (13 morts).

6 avril 1992 La Conférence nationale qui était suspendue depuis le 23 janvier reprend et se déclare souveraine le 15 avril.

21 avril 1992 La Conférence nationale désigne Monseigneur Laurent Monsengwo comme président de l'assemblée.

Septembre 1992 Affrontements inter-ethniques entre Kasaiens et Shabiens dans le Shaba.

6 décembre 1992 La Conférence nationale achève ses travaux après avoir désigné un Haut Conseil de la République (HCR) aux fonctions législatives et de contrôle.

Décembre 1992 Pillage de Kisangani, au Shaba, et destruction partielle de Goma, à l'est du pays, par des soldats réclamant le paiement de leur solde. Les troubles s'étendent à plusieurs autres villes, dont Kolwezi.

15 janvier 1993 Le HCR annonce une procédure de destitution du Président, l'accuse de haute trahison et déclenche une journée "ville morte" à Kinshasa.

**Entre le 24 et le 29 janvier 1993 Kinshasa connaît sa deuxième vague de pillages.** Ces émeutes, à nouveau initiés par les militaires, feront plus de 1 000 morts et notamment, celle de l'ambassadeur de France, Philippe Bernard, et d'un de ses collaborateurs, tués dans leur bureau). 1 300 étrangers sont évacués.

17 mars 1993 Mobutu fait élire Faustin Birindwa (désavoué par le HCR).

Juillet 1993 Des affrontements éclatent au Kivu et font 4 000 morts.

Octobre 1993 Création du nouveau zaïre, qui vaut 3 millions de zaïres anciens. 1 BEF = 257.143 z anciens

Décembre 1993 Valentin Lubuma, membre du parti lumumbiste unifié, est assassiné.

1994 Suite à la guerre au Rwanda et à la guerre civile au Burundi, plus d'un million de réfugiés s'installe en territoire zaïrois.

14 janvier 1994 Après un accord avec l'opposition, Mobutu annonce la démission du gouvernement et la dissolution du HCR, remplacé par le Haut Conseil de la République - Parlement de transition.

14 juin 1994 Léon Kengo Wa Dondo est élu Premier ministre.

Juin 1994 Le Président Mobutu accorde à la France le droit d'utiliser le kivu zaïrois comme base arrière de son opération militaro-humanitaire "Turquoise", qui aboutira à permettre la fuite au Zaïre de l'armée rwandaise et des milices génocidaires, avec un million de civils.

Juillet 1994 Kengo Wa Dondo, élu par l'assemblée de transition, devient Premier ministre, à la colère de Tshisekedi qui estime que le poste lui revient.

Novembre 1994 Le Président Mobutu est invité au sommet franco-africain de Biarritz, ce qui marque la fin de son isolement diplomatique sur la scène internationale.

Printemps 1995 Début d'une épidémie de fièvre hémorragique dans la région de Kikwit (virus Ebola) qui fait 244 morts.

30 septembre 1996 Bukavu est la première ville prise par la rébellion, dirigée par **Laurent-Désiré Kabila**.

25 octobre 1996 L'Alliance des Forces Démocratiques pour la Libération du Congo-Zaïre (AFDL) est créée avec, pour objectif, le renversement de la dictature de Mobutu.

31 octobre 1996 Combats dans le Nord-Kivu : 300.000 réfugiés fuient leurs camps.

4 novembre 1996 Le gouvernement de Kinshasa reconnaît ne plus contrôler Goma et Bukavu.

3 décembre 1996 Paris réaffirme son attachement à "l'intégrité territoriale du Zaïre".

2 janvier 1997 Le gouvernement zaïrois, présidé par Léon Kengo wa Dondo, annonce une réplique foudroyante pour enrayer la progression des troupes rebelles.

18 février 1997 L'ONU demande "la cessation des hostilités".

15 mars 1997 La troisième ville du pays, Kisangani, tombe aux mains des rebelles.

16 mars 1997 Bruxelles estime que "l'époque de Mobutu est révolue".

21 mars 1997 Le Président Mobutu, soigné en France, rentre au Zaïre.

26 mars 1997 Première rencontre entre représentants de Mobutu et de la rébellion en marge d'un sommet africain au Togo.

31 mars 1997 La rébellion prend le contrôle de Kasenga et de Kamina.

4 avril 1997 La capitale du diamant, Mbuji Mayi, est conquise par la rébellion.

Du 5 au 8 avril 1997 Discussions directes inter-zaïroises à Pretoria en Afrique du Sud.

9 avril 1997 Après quelques heurts avec la DSP (Division Spéciale Présidentielle), Lubumbashi, deuxième ville du pays, est contrôlée par les troupes de Laurent-Désiré

Kabila.

13 avril 1997 Les rebelles prennent Kananga, capitale du Kasai occidental, et Kolwezi (Shaba).

29 avril 1997 Alors que Kikwit, à 500 km à l'est de Kinshasa, tombe aux mains des rebelles, Washington estime que le Président Mobutu "a fait son temps".

2 mai 1997 Chute de la ville natale du maréchal Mobutu, Lisala, à 1.000 km au nord de Kinshasa.

4 mai 1997 Premier face-à-face (et dernier) entre le Président Mobutu et le chef de la rébellion, Kabila, à bord du bateau sud-africain, l'Outenika, au large des côtes du Congo.

8 mai 1997 Bandundu, à 300 km de Kinshasa, passe sous contrôle des rebelles alors que se tient à Libreville un sommet de six chefs d'Etat francophones d'Afrique centrale qui prône une "solution négociée".

10 mai 1997 L'archevêque Laurent Monsengwo est élu à la présidence du Haut Conseil de la République/Parlement de transition, mais ce dernier, lors d'une conférence de presse tenue à Bruxelles, réserve sa réponse.

14 mai 1997 Annulation du deuxième sommet entre Mobutu et Kabila, sous l'égide du Président Nelson Mandela et qui devait se tenir sur le bateau sud-africain à Pointe-Noire au Congo.

16 mai 1997 Le maréchal Mobutu se rend à Gbadolite, son fief, situé à 1.200 km au nord de Kinshasa et proche de la frontière de la République Centrafricaine. Il annonce sa décision de "se tenir à l'écart de la conduite des affaires du gouvernement", sans renoncer à sa fonction.

**17 mai 1997** Le chef d'Etat major, le général Mahele, est assassiné dans la nuit de vendredi à samedi par des agents de la DSP (Division Spéciale Présidentielle).

**Les troupes de Kabila entre dans la capitale Kinshasa**, sans rencontrer de véritable résistance.

L'AFDL, dans un communiqué lu à Lubumbashi par Laurent-Désiré Kabila, annonce que Monsieur Kabila devient le Président du pays qui est aussitôt rebaptisé République Démocratique du Congo.

7 septembre 1997 L'ex-président Mobutu meurt, suite à un cancer de la prostate, dans un hôpital de Rabat au Maroc.